

September 24, 2020

**【前日の為替概況】リスクオフでドル続伸、対円 105.49 円、対ユーロ 1.1652 ドル**

23日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3日続伸。終値は105.39円と前営業日NY終値(104.93円)と比べて46銭程度のドル高水準。金や銅など貴金属価格が軒並み下落するなか、資源国通貨に対してドル高が進むと円に対してもドル買いが先行。米10年債利回りの上昇も相場の支援材料となり、105.49円と日通し高値を付けた。ダウ平均が一時570ドル超下落し、ナスダック総合が3%超下落したこともリスク・オフのドル買いを誘った。

パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長は米下院特別小委員会の公聴会で、金融当局によるメインストリート貸し付けプログラムについて「基本的に考え得る措置は全て実施した。新型コロナウイルス禍からの景気回復の道のりは長く、米議会とFRBの双方が回復への取り組みを続ける必要がある」と強調した。

資源国通貨は軟調だった。金属相場下落を受けて、資源国通貨とされる豪ドルや南アフリカランドに売りが集まった。豪ドル米ドルは0.7069米ドルまで下落、ドルランドは17.1026ランドまで上昇した。

ユーロドルは4日続落。終値は1.1660ドルと前営業日NY終値(1.1708ドル)と比べて0.0048ドル程度のユーロ安水準。対資源国通貨中心にドル高が進むと、ユーロに対してもドル買いが先行。米国株相場の下落を背景にリスク・オフのドル買いも散見され、一時1.1652ドルと7月27日以来の約2カ月ぶりの安値を付けた。市場関係者からは「欧州で新型コロナ感染が再拡大するなか、行動制限の強化による景気回復の遅れが懸念されてユーロは上値の重い展開だった」との声が聞かれた。主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時94.43と7月24日以来約2カ月ぶりの高水準を付けた。

ユーロ円はほぼ横ばい。終値は122.89円と前営業日NY終値(122.86円)と比べて3銭程度のユーロ高水準。ドル円の上昇につれた円売り・ユーロ買いが出て123.19円と日通し高値を付けたものの、ユーロドルの下落につれた売りが出ると値を消した。

**【本日の東京為替見通し】ドル円、リスク回避地合いで底堅い展開か**

本日の東京外国為替市場のドル円は、欧米での新型コロナウイルス第2波への警戒感が高まっていること、欧米の景況感悪化懸念が高まっていることで、リスク回避地合いで底堅い展開が予想される。

ドル円の注文状況は、上値には、105.50-90円には断続的に売りオーダーが控えている。下値には、105.00円に本日のNYカットオプション、104.80円に買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

ドル円のテクニカル分析では、陰線新安値5手で下落トレンドを形成した後、104.00円まで下ヒゲを伸ばした切込み線、3手連続陽線となっており、綾戻しの可能性を示唆している。現状のドル円相場は、下落トレンドがメインシナリオと想定できることで、5手連続陰線での下げに対して、3手連続陽線での反発で、綾戻しは完了し、下げに転じる可能性に要警戒となる。テクニカルポイントは、一目・転換線の105.09円、一目・基準線の105.48円、一目・雲の下限105.97円に控えている。

ドル円相場とリスクオフ・リスクオンの関係は以下の通りとなっており、本日は、1)となっており、ドル円は堅調推移が予想される。

**■リスクオフ(リスク回避: Risk off) ドル高&円高**

投資家がリスク(金融危機、米中貿易戦争、地政学リスク)を避けて、リスク資産(株・商品・高金利通貨)から、安全資産(国債・短期金融資産)へ資金を向ける局面。

- 1) NY株安・債券安(金利上昇)の場合: リスクオフのドル高&円高に、金利上昇のドル高が加わるので、「円高」より「ドル高」が優勢となり、ドル円は上昇する。
- 2) NY株安・債券高(金利低下)の場合: リスクオフのドル高&円高を、金利低下のドル安が相殺するので、「ドル高」より「円高」が優勢となり、ドル円は下落する。

**■リスクオン(リスク選好: Risk on) ドル安&円安**

投資家がリスクを厭わずにリターン(収益)を追及し、リスク資産への投資を行う局面。

- 3) NY株高・債券安(金利上昇)の場合: リスクオンのドル安&円安を、金利上昇のドル高が相殺するので、「ドル安」より「円安」が優勢となり、ドル円は上昇する。
- 4) NY株高・債券高(金利低下)の場合: リスクオンのドル安&円安に、金利低下のドル安が加わるので、「円安」より「ドル安」が優勢となり、ドル円は下落する。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ☆ 7月14-15日分の日銀金融政策決定会合議事要旨
- 未定 ◇ 9月月例経済報告

## &lt;海外&gt;

- 07:45 ◎ 8月ニュージーランド(NZ)貿易収支(予想:3.50億NZドルの赤字)
- 15:45 ◇ 9月仏企業景況感指数(予想:94)
- 16:30 ☆ スイス国立銀行(中央銀行)、政策金利発表(予想:▲0.75%で据え置き)
- 17:00 ◎ 9月独 Ifo 企業景況感指数(予想:93.8)
- 17:00 ◎ ノルウェー中銀、政策金利発表(予想:0.00%で据え置き)
- 20:00 ◎ トルコ中銀、政策金利発表(予想:8.25%で据え置き)
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数/失業保険継続受給者数(予想:84.3万件/1233.9万人)
- 21:50 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、講演
- 22:00 ◎ レーン欧州中央銀行(ECB)専務理事、講演
- 23:00 ☆ パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、ムニューシン米財務長官、米上院銀行委員会で証言
- 23:00 ☆ 8月米新築住宅販売件数(予想:前月比▲1.0%/89.0万件)
- 23:00 ◎ ベイリー英中銀(BOE)総裁、講演
- 25日 01:00 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演
- 25日 02:00 ◎ 米財務省、7年債入札
- 25日 02:00 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、講演
- 25日 02:00 ◎ バーキン米リッチモンド連銀総裁、講演
- 25日 03:00 ◎ メキシコ中銀、政策金利発表(予想:4.25%に引き下げ)
- 25日 03:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
- 25日 03:00 ◎ ボスティック米アトランタ連銀総裁、講演
- 南アフリカ(伝統文化継承の日)、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

23 日 12:53 黒田日銀総裁

「首相に内外の経済金融情勢を説明」  
「政府と日銀がしっかり連携することで一致」  
「2%物価安定目標を目指す考えに変わらない」  
「共同声明に沿って政策運用する考えに変わらない」  
「為替について特に話したことはない」  
「為替は、ファンダメンタルズを反映し、安定的に推移することが望ましい」  
「必要であれば躊躇なく追加的な金融緩和措置を講じる」  
「極めて緩和的な金融環境を維持する必要」  
「感染症の経済・金融への影響に大きな不確実性がある」  
「引き続き資金繰り支援と金融市場の安定維持に努める」  
「輸出は持ち直しも、感染症の影響や米中対立・保護主義などリスクあり、今後の展開はよくみていく必要」  
「政府と日銀が十分意思疎通し、しっかり連携して政策運営していくことで一致」  
「新型コロナ対応の資金繰り支援策、感染症の影響を踏まえて必要なら期限延長もありえる」

23 日 15:10 ラーブ英外相

「2 回目のロックダウンを排除しない」  
「我々は適切な対策を講じており、皆がその対策に従えばロックダウンなしにクリスマスを迎えられる」  
「状況の見直しを行い、リアルタイムで制限を変更していく」

23 日 18:22 バルニエ欧州連合(EU)離脱首席交渉官

「離脱協定案は合意したまま」

23 日 20:51 ストルテンベルグ NATO 事務総長

「ギリシャとトルコの協議は良い進展があった」

23 日 21:25 クラリダ米連邦準備理事会(FRB)副議長

「実質のインフレ率が 2%を超えるまで利上げを考えるつもりはない」  
「インフレ 2%以下の期間をオフセットするためには、2%以上である程度の期間を費やす必要」  
「米経済の回復には追加の財政支援が必要となる可能性」

23 日 22:57 メスター米クリーブランド連銀総裁

「米経済の回復には大規模な金融緩和策と財政支援が必要」

23 日 23:58 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

「考えられる措置は基本的に全て実施した」

24 日 00:29 エバンズ米シカゴ連銀総裁

「当面の間インフレが 2%を超えることが非常に重要」  
「財政支援の欠如は失業率がそれほど低下しないことを意味する」

24 日 01:57 ローゼングレン米ボストン連銀総裁

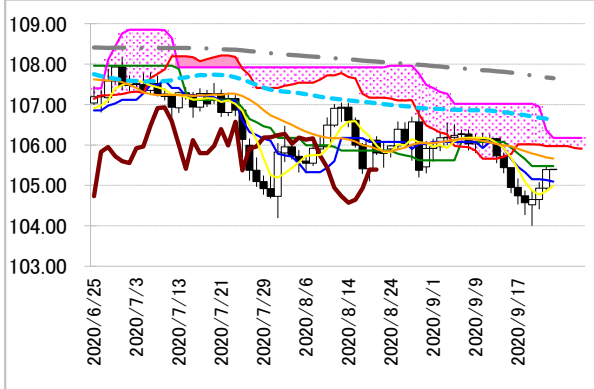
「4 年以内にインフレ 2%を達成できれば運が良い」

24 日 03:59 クォールズ米連邦準備理事会(FRB)副議長

「回復は進んでいるが、リスクは依然として下向き」  
「FRB はフォワードガイダンスを通じて回復ペースを速めることを望む」  
「雇用の伸びは鈍化し、事業支出の見通しは不確実」  
「将来のインフレ指標は急速な加速を示していない」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

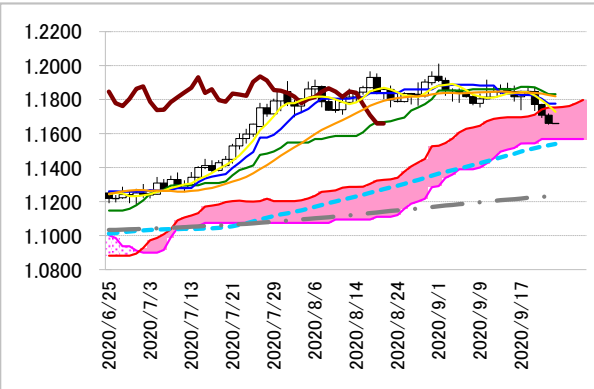


### <ドル円=9/22 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。陰線新安値5手で下落した後、3手連続陽線で反発基調にあり、綾戻しの可能性が示唆されている。

本日は、9月22日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	105.97(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	105.39
サポート1	104.41(9/22 安値)
サポート2	104.00(9/21 安値)

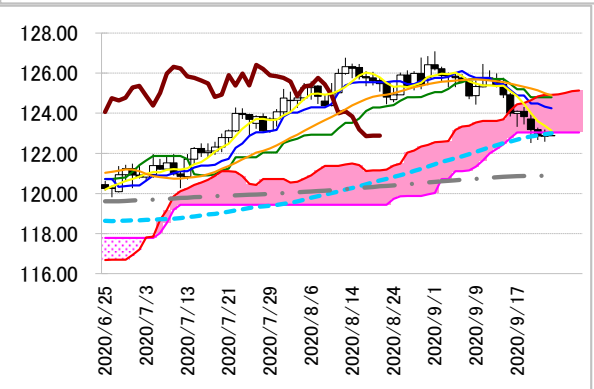


### <ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。高値圏での逆行現象(ダイバージェンス)、4手連続陰線で転換線を下回っていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1776(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1660
サポート1	1.1567(日足一目均衡表・雲の下限)

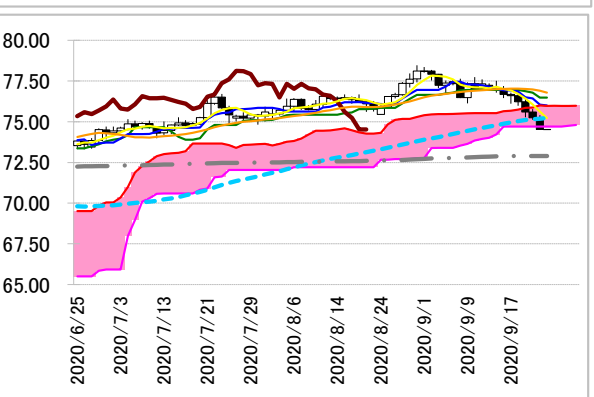


### <ユーロ円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。3手連続陰線で下落後に反発しているものの、転換線を下回って引けていることで、反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	124.25(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	122.89
サポート1	122.52(9/21 安値)



### <豪ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。8手連続陰線で転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	76.00(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	74.53
サポート1	73.98(7/10 安値)

